

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(7/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
京浜臨海部ライフイノベーション 国際戦略総合特区 (神奈川県、横浜市、川崎市)	3.7	4.0 進捗度 ・個別化・予防医療及び未病改善などを実現するためのデータサイエンスの活用等に取り組む事業数 129% ・医薬品・医療機器・再生医療等製品等の早期実用化に向けた取組件数 68% ・新たに展開された商品・サービスの創出件数 150% 等	2.8 財政支援等 ・地域イノベーション戦略支援プログラム ・総合特区設備等投資促進税制等 地域独自の取組 ・産業集積促進奨励金 等	4.0	<p>・数値目標的には、概ね高い達成率を得ていると思われる。</p> <p>・進捗としては概ね良好と判断されるが、規制緩和などの項目に関して従来から進展がないように見られる。また、地元独自の支援ももう少し活発に行った方がよいように思われる。</p> <p>・投資額、データサイエンス事業数等の進捗が高い中で、就業者、研修者の増加が限定的なのは新型コロナの影響とも考えられるが、追加的な説明、今後に向けた準備的対応について説明を期待する。</p> <p>・医薬品・医療機器・再生医療機器製品等の新規開発件数において、目標値が平成29年度から令和3年度において増加目標があるように見受けられるが、実績については、その目標を上回っている。この背景について目標値設定の妥当性も含めて研究者側の事情を聞いてみたい。</p>